

第6章

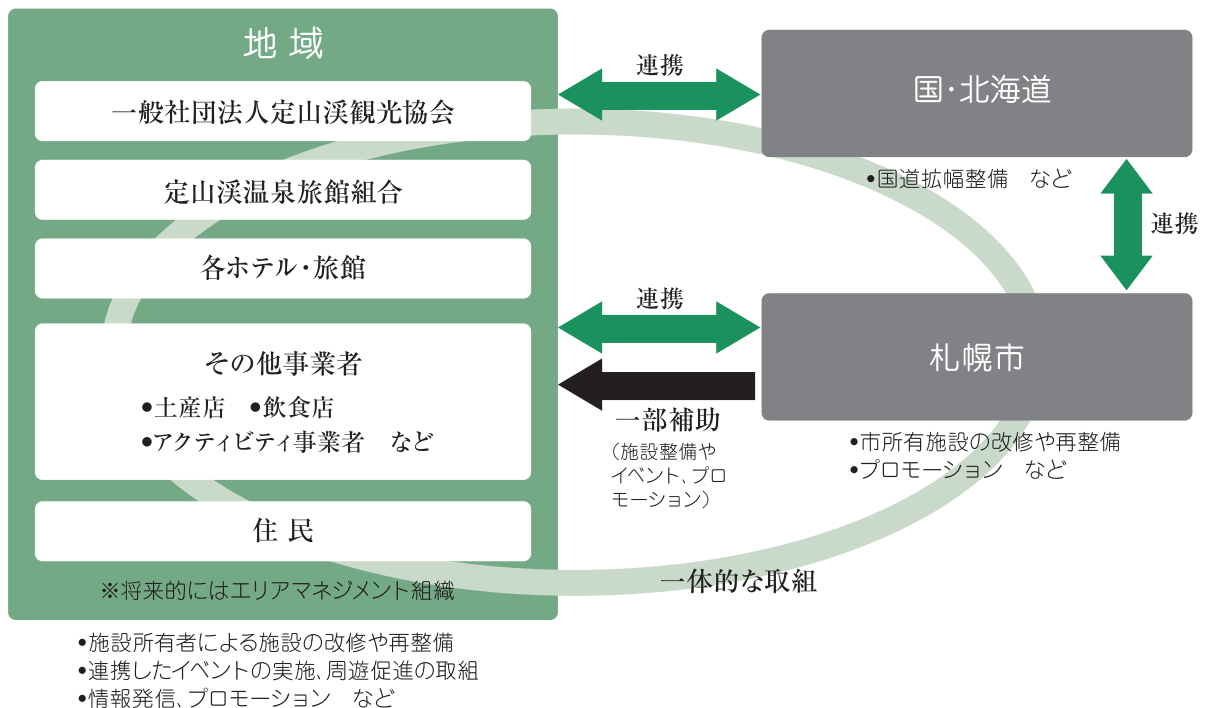
観光魅力アップの推進に向けて

1 推進体制

定山溪観光魅力アップの推進にあたっては、札幌市と地域が役割分担をしながら、連携して進めていきます（「資料編P46～47 定山溪観光魅力アップ構想の実施主体及び展開スケジュール」参照）。

地域においては、一般社団法人定山溪観光協会、ホテル・旅館、その他の事業者、住民が一体となって取組を推進するとともに、定山溪エリアをマネジメントする体制づくりを行います。

【推進体制イメージ】



2 段階的な魅力アップの推進

魅力アップに向けて取り組むにあたり、既存施設の改修や周辺観光資源との連携強化など、すぐに着手できることは速やかに実施し、国道230号の拡幅に関連する事業など、時間のかかる取組については、タイミングよく効果的に実施できるよう、先を見据えて段階的に進めます。

特に、基本方針1については、先行的にできる取組を行いつつ、集客交流拠点施設を核とする各種施設整備に向けた基本計画などを策定し、具体的な取組に反映します。

新たな取組については、実証実験を積極的に行い検証するなど、さまざまな手法を用いながら、本格的な取組につなげていきます。

3 進行管理

上位計画である札幌市観光まちづくりプランでは、観光を取り巻く社会経済情勢の変化に的確に対応し、弾力的かつ機動的に施策を展開するため、柔軟な見直しを行う計画としています。

本構想については、成果指標を設定して客観的に検証し、札幌市観光まちづくりプランにおける毎年度の点検・評価に新たな取組などを追加・補強しながら進行管理を行うとともに、必要に応じて基本方針などの見直しを図ります。

【成果指標】

- 定山溪地域の延べ宿泊者数
1,197千人(平成25年度)⇒1,450千人(平成36年度)
- 温泉街の街並みに魅力があると感じる人の割合
42.2%(平成24年度) ⇒60%(平成36年度)
- 周辺観光スポットが充実していると感じる人の割合
39.3%(平成24年度) ⇒60%(平成36年度)

